

実証実験等の実施

○ 東バイパスを運行する総合病院環状ルートの実証運行

1. 目的

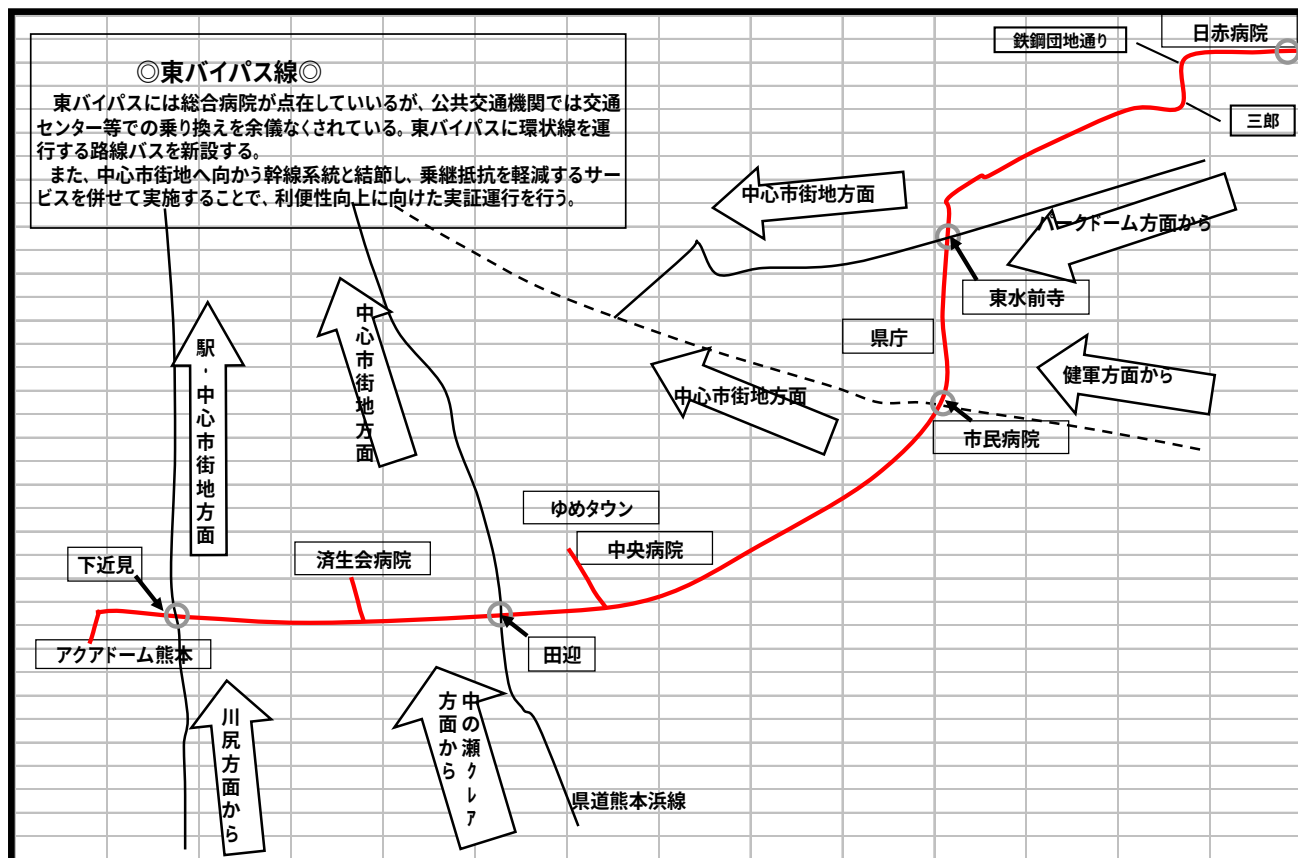
本格的な少子高齢化を迎え、生活に必要な移動手段の確保は今後ますます重要な課題となっていることから、総合病院が点在する東バイパスに西南部と東部を結ぶ環状線を運行させるとともに中心部に向かう幹線と交差するバス停を乗継利便向上のサービスを併用して行うことで、環状線の有効性を検証するとともに路線維持の可能性について検証するもの。

2. 内容

- ・ 南西部地区（アクアドーム）と東部（日赤病院）を結ぶ東バイパスを運行する環状線を運行させる。
- ・ 運行間隔は、最低でも 1 時間に 1 本は確保するとともに、幹線を運行するダイヤとの調整を図ることで乗り継ぎしやすくする。
- ・ 乗継ぎで発生する初乗り運賃の割高感を軽減するため乗継割引を設定する。
- ・ 結節するバス停には、乗継ダイヤ表を掲示するとともに配布用のダイヤ表を備え付ける。

<概要>

- ・ 運行キロ程：15.0km（片道）
- ・ 運行本数：往復 23 回（1 日 46 便）



○バス乗換え拠点改善

1. 目的

バス路線網や利用促進策を盛り込んだ「地域公共交通総合連携計画」に位置づけられたバス路線網における乗換え拠点について、整備を進めるため、乗換え拠点の整備優先順位や手法等の調査を行うもの。

2. 事業概要

乗換え拠点候補地の現況把握、バス路線計画の検討、乗換え拠点の概略検討、整備効果の算出、整備優先順位の検討を行う。

※想定される乗換え拠点は、健軍電停周辺、県庁周辺、川尻駅周辺、託麻市民センター周辺、並建周辺、武蔵塚駅周辺等。

3. 事業スケジュール

H 2 1 年度 ・乗換え拠点の整備優先順位や整備手法の調査

H 2 2 年度～・乗換え拠点の詳細設計及び整備

主要ターミナル、サブターミナルの整備イメージ



ミニバスターミナルの整備イメージ



○公共交通利用促進

1. 事業概要

①利用促進策の検討及び実施経費

・バストリガー方式

大学と交通事業者の連携によって、J R 駅と大学を結ぶ路線について、安価な料金設定による利用者増加を図る。社会実験としての実施も視野に入れ、実現可能性の検証や目標利用者数の算定基礎とすることから、事前アンケートを行うとともに、実施後のモビリティマネジメントを行うものである。また、今回の結果をもとに、今後、他の特定施設を対象にしたバスサービスの検討を行う。

・モビリティマネジメント

過去アンケート調査から、バスに関する情報が欲しいということが多いことから、アナログではあるが、積極的に時刻表やバスマップ等をバス路線沿線の全戸に配布することで、バスの基本情報を提供した後の市民の動向を調査するとともに、併せてバス利用を促進するものである。

連携計画に位置づけられたバス圏域の中で、自家用車から利用転換の可能性を高めるため、バスの利便性が高い南部方面の特定路線沿線を対象とする。さらに、今回の利用動向やアンケート結果などから検証を行い、対象を全市に広げ利用促進を図ることや、携帯電話など通信機器によるバス情報の提供の可能性を探ることとする。

②公共交通機関利用促進キャンペーンに対する補助

9 月下旬から 1 ヶ月間、都市圏の交通渋滞と環境問題等の対策として、マイカーより公共交通機関への利用転換を図るためキャンペーンを実施するもの。街頭キャンペーン（環境対策車両やパネルの展示、ボンネットバス試乗会）、小学生以下乗車無料の日、ノーマイカーデー、中心商店街とタイアップした利用促進サービス等の実施。